

「有明海シミュレーター」の開発

広島大学生物生産学科3年 高塚裕太

○目的

有明海における環境改善事業の効果を定量的に予測・評価したい
→干満差日本一、広大な泥干潟、多数の流入河川といった有明海特有の環境に特化したシミュレーターを開発したい

○方法

- ・伊勢湾シミュレーター（※1）を参考に、有明海の環境に特化したシミュレーターを開発する
- ・すでに開発されている環境モデル（浮遊生態系モデル、泥質干潟生態系モデルなど）を組み合わせ有明海の環境を再現する

必要なデータ：塩分、水温、DO、プランクトン量、潮流、濁度、気候、栄養塩濃度

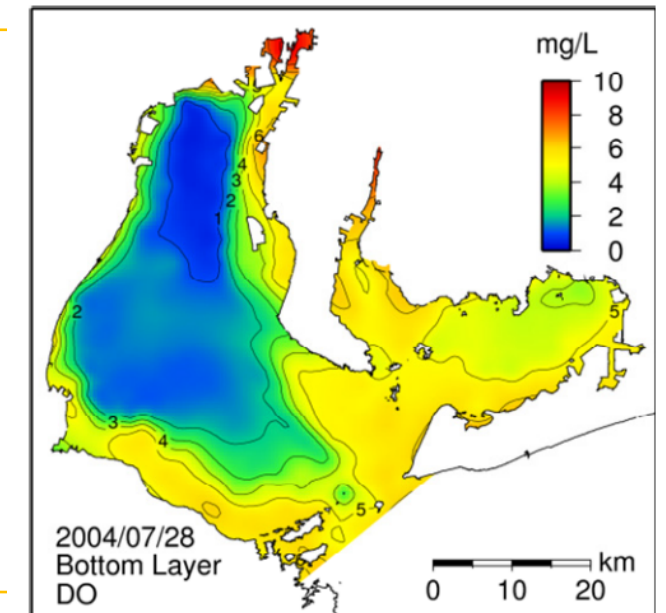


図-9 伊勢湾の底層貧酸素水塊の再現

○期待する結果

- ・季別運転など環境事業を定量評価できる
→環境事業が活性化し、有明海がさらに豊かな海になる！
- ・有明海の現状把握と未来予測が可能に！
→環境改善に必要なことが明確になる

○展望

- ・継続的な環境データの収集が不可欠
→下水浄化センターや気象台、大学など有明海の環境データを取っている団体の連携
- ・実測値との比較によるシミュレーターの精度検証が必要